

## 愛臨技学部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：平成 29 年 5 月 29 日 報告者：小木曾 美紀

行事種別	研究会	行事番号	170000581	
開催日	平成 29 年 5 月 13 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 30 分
場所	藤田保健衛生大学生涯教育研修センター棟 2 号館 1F 101 講義室 (所在地 豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98)			
テーマ	日当直時に困らない 輸血検査・業務を整理しよう!!			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	JA 愛知厚生連 豊田厚生病院	木村 有里 技師		
講師	<p>血液型検査について整理しよう!!</p> <p style="text-align: center;">JA愛知厚生連 海南病院 沖 かずよ</p> <p>不規則抗体検査と交差適合試験について整理しよう!!</p> <p style="text-align: center;">名古屋第一赤十字病院 村上 和代</p> <p>緊急輸血の対応について整理しよう!!</p> <p style="text-align: center;">愛知県がんセンター中央病院 早川 英樹</p>			
内容	<p>日当直者を対象とした輸血検査と緊急時の輸血対応について開催した。</p> <p>1 題目は、血液型検査について沖技師より、AiCCLS より発行されたばかりの血液型検査正常反応編及び異常反応編のリーフレット内容を中心として講演頂いた。また血液型検査の異常反応時の対応については、実例をもとに考え方と対応方法を解説頂いた。</p> <p>2 題目は、不規則抗体検査と交差適合試験について村上技師より、検査方法の種類とその原理について講演頂いた。また日当直者から受けた相談内容とその対応方法について解説頂いた。</p> <p>3 題目は、緊急輸血の対応方法について早川技師より、危機的出血への対応ガイドライン及び産科危機的出血への対応 2017 の内容について解説頂き、実際に緊急輸血が必要となった時にどのような情報が必要か 5W2H を利用し、わかりやすく解説いただいた。また、血液センターの供給体制についても紹介いただき、日当直者が血液製剤を発注する際に知っておくと良い情報提供をして頂いた。</p> <p>今回の研究会は、日当直者対象とあって多くの方に参加して頂いた。今後も日当直者向けの企画を継続して開催する必要性を感じた。</p>			
参加者	総数：170 名 (会員 157 名、非会員 3 名、賛助会員 10 名、学生 0 名、 その他 0 名)			
共催、後援など				

## 愛臨技学部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：平成 29 年 7 月 31 日 報告者：小木曾 美紀

行事種別	基礎講座	行事番号	170003124	
開催日	平成 29 年 7 月 29 日 (土)			
時間	基本コース 開始	14 時 00 分	終了	17 時 30 分
場所	名古屋市立大学医学部 基礎研究棟 4F 微生物実習室 (所在地 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1)			
テーマ	実技講習会 「輸血検査のテクニックを学び、現場で生かそう！！」 基本コース			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	日進おりど病院	小木曾 美紀 技師		
講師	輸血検査研究班 班員			
内容	<p>基礎講座は、基本コースと応用コースの 2 コースを設けて行った。</p> <p>基本コースは、輸血検査の基本操作、血液型検査、交差適合試験について実技講習を行った。参加者を 2 名 1 班に分け合計 17 班作成した。各班に班員が実務委員として付き、実技指導を行った。日当直のみで輸血検査を実施されている方や若手技師で輸血検査の経験が少ない方が多く参加されたので、試験管法での基本的操作の習得については、手厚く指導することができた。</p> <p>基本操作は、赤血球浮遊液の作成方法、赤血球洗浄方法、試験管の振り方、反応の見方、凝集の強さの見方について、基本手技用検体にて行った。</p> <p>血液型検査は、正常検体で血液型検査の基本方法を習得後、部分凝集がみられる検体を用いて、試験管法でみられる部分凝集について確認した。またスライド法でどのような反応態度となるかをデモンストレーションで確認した。</p> <p>交差適合試験は、生理食塩液法のみ実施し、手技を確認した。また異型輸血の場合の考えた方や対応方法について考えた。</p> <p>実務委員がほぼマンツーマンで指導することで、手技の指導が細かく行うことができ、参加者もわからないことは、その場ですぐ聞ける体制であったので、輸血検査の基本手技の習得することができたと思われる。</p>			
参加者	総数：54 名 (会員 54 名、非会員 名、賛助会員 名、学生 名、その他 県外 名)			
共催、後援など				

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：平成 29 年 7 月 31 日 報告者：小木曾 美紀

行事種別	基礎講座	行事番号	170003125	
開催日	平成 29 年 7 月 30 日 (日) 応用コース			
時間	応用コース 開始	9 時 0 0 分	終了	17 時 00 分
場所	名古屋市立大学医学部 基礎研究棟 4F 微生物実習室 (所在地 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1)			
テーマ	実技講習会 「輸血検査のテクニックを学び、現場で生かそう！！」 応用コース			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	日進おりど病院 小木曾 美紀 技師			
講師	輸血検査研究班 班員			
内容	<p>応用コースは、血液型検査、抗体解離試験実施とその抗体同定、不規則抗体スクリーニング・抗体同定とその症例についてグループディスカッションおよび発表を行った。参加者を 3 名 1 班に分け、各担当実務委員 1～2 名が班に付き実技指導を行った。輸血検査経験年数の浅い方から、認定輸血検査技師の取得を目指す方など輸血検査のスキルアップと検査結果から何が考えられるか適合血選択までの知識習得を行った。血液型検査では、部分凝集やオモテ・ウラ不一致の結果が得られた時の考え方や対応方法について確認した。</p> <p>また、抗体解離試験を実施し、得られた解離液を用いて抗体同定を行った。グループディスカッションでは、班内で実施した血液型検査、不規則抗体検査の結果をもとに結果のまとめ、適合血の選択、医師への報告方法の検討を行い、その後各班の代表者による発表を行った。</p> <p>輸血認定検査技師の取得を目指す方、スキルのステップアップを目指している方々が幅広く参加され、手技の確認、消去法、適合血の選択、医師への報告と輸血部門での現場に戻られてから実践で使用できる内容の実技講習会となった。</p>			
参加者	総数：65 名 (会員 60 名、非会員 名、賛助会員 名、学生 名、その他 県外 5 名)			
共催、後援など				

## 愛臨技学部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：平成 29 年 11 月 23 日 報告者：小木曾 美紀

行事種別	研究会	行事番号	170040260	
開催日	平成 29 年 11 月 18 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 30 分
場所	アーバンネット名古屋ビル 20F リップルスクエア (所在地 名古屋市東区東桜 1-1-10)			
テーマ	症例検討会 『輸血しないとイケないのに!!こんな時どうする?』			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	碧南市民病院	浜子 宗子 技師		
講師	<p>『不規則抗体保有患者に緊急輸血!!』 豊川市民病院 沖松 秀美 技師</p> <p>『大量輸血で在庫がない!!』 JA 愛知厚生連 江南厚生病院 吉本 一恵 技師</p> <p>『血液型が前回と違う!!』 JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 木村 有里 技師</p>			
内容	<p>日常(日当直時含む)業務の中で遭遇す可能性のある症例を提示し、どのように対応するかを参加者とともに考えながら進める(途中で対応方法について選択肢を提示し、どれを選択するか参加および意見を述べる)形式で症例検討を開催した。「緊急で輸血をしたい!!」と医師に言われ、困った状況の中、どのように考えて、どのように対処するか検討した。</p> <p>1 講演目は、『不規則抗体保有患者に緊急輸血!!』の症例として不規則抗体保有判明数日後の夜間に吐血で緊急搬送され、輸血が必要となった患者へ適合血の準備方法、医師への報告について検討した。</p> <p>2 講演目は、『大量輸血で在庫がない!!』として 2 症例提示した。1 症例目は、OPE 中に追加の輸血依頼がきた症例で、対応できる在庫が不足していた、医師への報告、対応方法について検討した。2 症例目は、D 陰性患者に同様に OPE 中に追加の輸血依頼がきた場合の考え方、対応方法、医師への報告について検討した。</p> <p>3 講演目は、『血液型が前回と違う!!』として、2 症例提示した。1 症例目は、入院前と入院後の血液型が違っていた症例で、同じ病棟で名前が似ていた患者検体の取り間違いであったが、どのようにして間違いを確認していったのか、解決策について検討した。</p> <p>2 症例目は、上部消化管出血にて緊急搬送された患者の血液型が過去に実施していた血液型と違っていたが、緊急輸血の依頼がきた。対応方法、医師への報告について検討した。この症例は、保険証を他人から借りていた患者なりすまし事例であった。このよう</p>			

	<p>な場合には、施設としてどのように対応するのかどのように対応するのがよいか、また血液型が前回と異なる場合には何を考え、どのように対応し、報告をどのようにするのかについて検討した。</p> <p>今回の研究会では、実際に起こりうる症例を複数提示し、考え方、進め方、医師への報告（特に伝え方、コミュニケーション）について考えた。また参加者から同様な症例に遭遇した経験やその対応についても話していただき、参加者から多くの意見が出て、有意義な研究会となった。</p>
参加者	総数：138名（会員131名、非会員0名、賛助会員5名、学生0名、その他県外2名）
共催、後援など	

2016.6.28

## 愛臨技学部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：平成 29 年 12 月 28 日 報告者：小木曾 美紀

行事種別	講演会	行事番号	170057516	
開催日	平成 29 年 12 月 9 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 30 分
場所	名古屋第一赤十字病院 内ヶ島講堂 (所在地 名古屋市中村区道下町 3 丁目 35 番地)			
テーマ	DIC と輸血			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	日進おりど病院	小木曾 美紀 技師		
講師	<p>講演1「DICの病態とAT療法」 一般社団法人 日本血液製剤機構 東海統括部 山田 雄也 氏</p> <p>講演2「アコアラン(リコンビナントAT)の使用経験」 藤田保健衛生大学病院 磯貝 聡衣 技師</p> <p>特別講演「DICと輸血」 金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 病態検査学 教授 森下 英理子 先生</p>			
内容	<p>DICは、基礎疾患の存在下で全身性持続性の著しい凝固活性化状態をきたす。治療としては、基礎疾患治療、抗凝固療法、補充療法、抗線溶療法がある。輸血部門が関わる抗凝固療法としてアンチトロンビン濃縮製剤の使用、補充療法として濃厚血小板、新鮮凍結血漿輸血があり、本講演会にて、DICの病態、診断基準及びAT療法および使用経験について解説して頂いた。また特別講演として、金沢大学の森下先生にDIC総論、病型分類、輸血を含む適切な治療法について講演頂き、DICの病態や検査、輸血療法を含む治療法について理解を深めることが出来た。</p> <p>1 講演目は、「DICの病態とAT療法」としてDICの概念、病態生理および敗血症性DICの機序とアンチトロンビン補充について講演頂いた。</p> <p>2 講演目は、「アコアラン(リコンビナントAT)の使用経験」として製剤の効能・効果・使用方法、留意点を説明後にリコンビナントATを使用した2症例提示して頂いた。</p> <p>特別講演は、「DICと輸血」として、血栓・止血システムの基礎知識、凝固・線溶マーカーについて、DIC発症機序(病態別)、診断基準と病型別治療方法を詳細に解説して頂いた。</p>			
参加者	総数：115名(会員98名、非会員1名、賛助会員2名、学生0名、その他13名、県外1名)			
共催、後援など	一般社団法人 日本血液製剤機構 (共催)			

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：平成 30 年 2 月 26 日 報告者：小木曾 美紀

行事種別	研究会	行事番号	170063940	
開催日	平成 30 年 2 月 10 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 30 分
場所	愛知医科大学本館 3F 301 講義室 (所在地 長久手市岩作雁又 1 番地 1)			
テーマ	輸血業務の精度管理を再考しよう！！			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司会	JA 愛知厚生連 江南厚生病院 原田 康夫 技師			
講師	講演1「平成29年度精度管理調査報告」 春日井市民病院 神野 洋彰 技師 講演2「血液センターにおける精度管理」 日本赤十字東海北陸ブロック血液センター 加藤 静帆 技師 講演3「輸血業務に必要な精度管理」 (前) 大阪大学医学部附属病院 輸血部 押田 眞知子 先生			
内容	<p>輸血業務の精度管理を再考しよう！！をテーマとして、愛臨技精度管理調査の結果報告と解説のみならず、病院以外でも精度管理を行っている血液センターでの精度管理方法について報告していただいた。講演3として輸血業務に必要な精度管理ということで、前大阪大学付属病院輸血部の押田先生より輸血業務全般で考えなければならない精度管理の考え方について講演いただき、輸血業務の精度管理の必要性について再度考え直す良い機会となった。</p> <p>1 講演目は、「平成 29 年度精度管理調査報告」として今年度実施した精度管理調査報告結果について説明いただき、解説及び考察を加えて講演頂いた。</p> <p>2 講演目は、「血液センターにおける精度管理」として自動分析装置ならびに用手法の精度管理方法、外れた場合の対応、精度担保に必要な人材育成システムについて講演頂いた。</p> <p>3 講演目は、「輸血業務に必要な精度管理」として、精度管理の目的、手順書の必要性、輸血業務の精度管理、機器の精度管理、検査業務の精度管理、コンサルテーション、教育と輸血業務全般について必要な精度管理、考え方について解説して頂いた。</p>			
参加者	総数：70 名 (会員 62 名、賛助会員 7 名、その他 1 名)			
共催、後援など				